

1. 対象樹木

(1) 概要

指定番号	199	指定年月日	平成11年7月16日		
呼称	榴岡天満宮のしらかし				
樹種	シラカシ				
推定樹齢 (指定時)	約300年	樹高 (R3調査時)	13 m	幹周 (R3調査時)	326 cm
所在地	仙台市宮城野区榴ヶ岡23				

(2) 位置

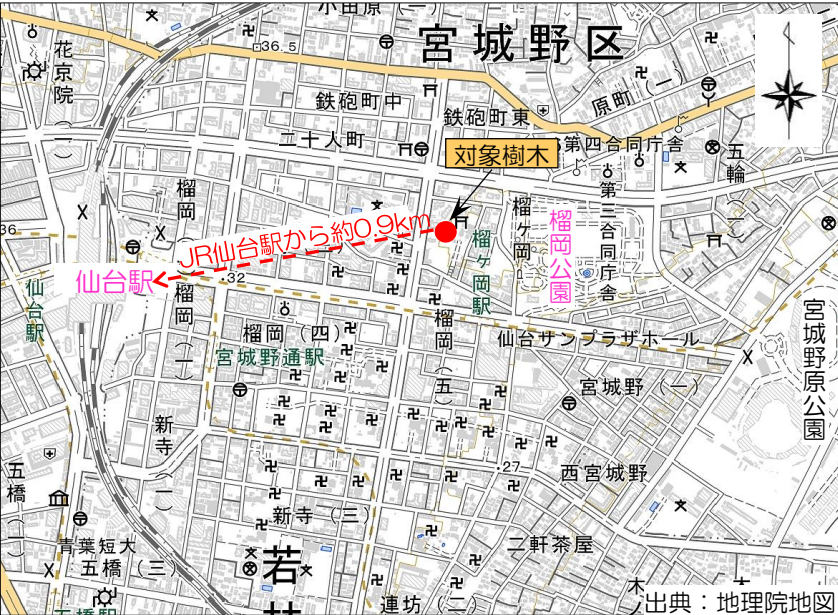


図1 位置図（広域）



図2 神社境内位置図

2. 経過

時 期	内 容	備 考
平成11年7月	保存樹木指定	
平成12年～	樹勢診断（一斉調査）	5年毎に実施。樹勢良好
平成22年10月	樹勢診断（一斉調査）	判定：健全に近い
平成27年10月	樹勢診断（一斉調査）	判定：健全に近い
令和3年10月	樹勢診断（一斉調査）	判定：不健全に近い 樹木医所見：根株腐朽や広範囲に及ぶ主幹部の打音異常、頭頂部の枝枯れが目立ち枝密度の低下が顕著であり、樹勢の低下が見られる。
令和7年11月	ナラタケ病発症	樹木医調査により、回復の見込みなしと診断される



写真1 平成22年10月撮影



写真2 平成27年10月撮影



写真3 令和3年10月撮影



写真4 令和7年11月撮影



（左）全景 （右上）葉の黄化 （右下）根本周辺のナラタケ群生

3. 指定解除の理由

令和3年度に実施した一斉調査において、「不健全に近い」との診断結果が出ていたが、その後も樹勢低下が進み、今年に入ってから衰退が急速に進行した。

今年11月に樹木医が調査したところ、ナラタケ病に感染していることが判明した。感染後の対処法としては、土壌の燻蒸や大規模な掘削による病根の除去等が有効とされているが、本対象木は「ナラタケ菌が樹体の広範囲にまで進行しており、回復の見込みはない」との所見であった。このまま衰退が進めば太枝の落下や倒木の恐れがあることから、樹木管理者より「参道歩行者への危険防止のため、早急に伐採し、保存樹木指定を解除したい」との申し出があった。以上の理由により、保存樹木の指定を解除するものである。

4. 樹木の状況詳細



写真5 全景（南西から撮影）



写真6 全体的に参道へ樹形が傾いている



写真8 樹冠部の様子 枯れ枝が目立ち葉の密度が著しく低下している

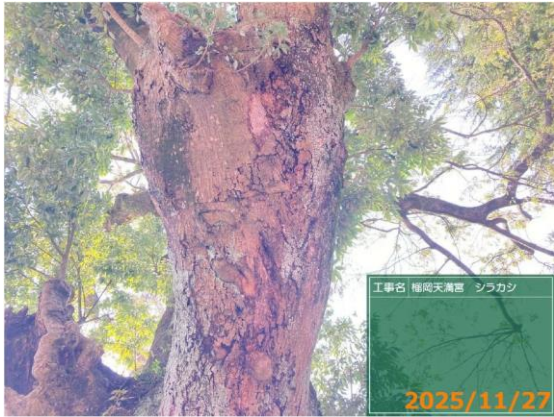


写真9 大枝（左）および根株（右）の腐朽部の様子

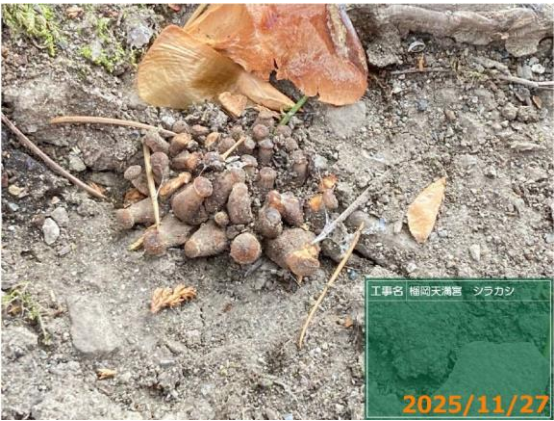
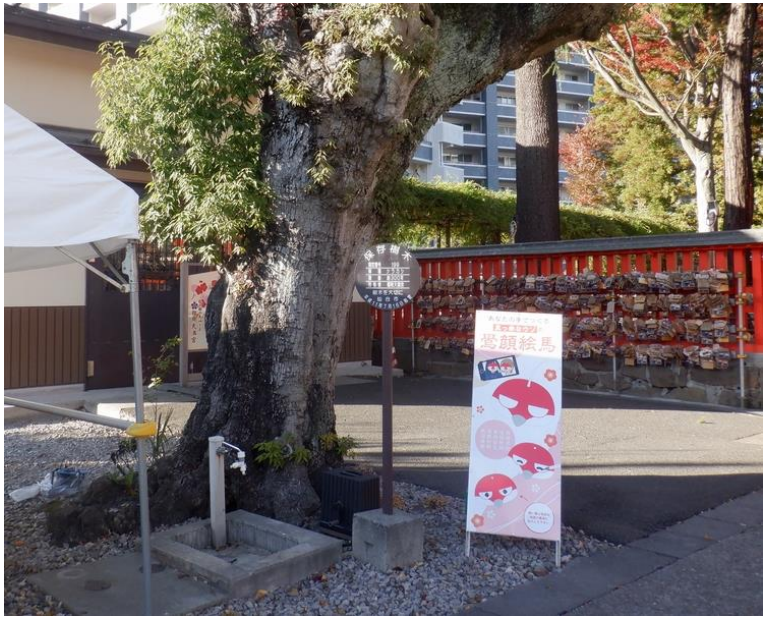


写真7 ナラタケの幼菌

初冬でも新たな子実体の発生が見られることから、感染が進行していると思われる

ナラタケ病とは

針葉樹、広葉樹の多くの樹種に発生する。大きな木ではしだいに樹勢が衰える症状が現れ、全体が枯死する。  
被害樹では、根の表面に菌糸膜が現れることはなく、根の樹皮下に白色で厚い菌糸膜が扇状にはびこる。さらに、被害根や幹の基部の樹皮下に黒い針金状の根状菌糸束がはびこる。被害部はキノコ臭がし、秋に被害樹の根元からキノコが発生する。

（出展：最新・樹木医の手引き、一般財団法人日本緑化センター）